

中間評価・革新的研究調査（FS）評価（案）一覧表

【ソフト分野・中間評価】

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H22 委託額(千円)	中間評価(案)	
21-1	1		研究名	道路交通の時間価値についての研究	東京大学 大学院准教授 加藤 浩徳	7,000	A
			概要	道路交通時間価値の推定方法に関する国内外の研究動向ならびに運用状況を踏まえつつ、我が国の実情に即した道路交通時間価値の推定方法を検討する。また、我が国の実データを用いて、道路交通の時間価値設定のあり方について検討する。			
21-2	3		研究名	地域 ITS 技術を用いた車線・道路幅員減少区間等における安全かつ円滑な走行支援手法の研究開発	高知工科大学 教授 熊谷 靖彦	11,000	B
			概要	地域の実情を考慮した ITS(地域 ITS)技術を活用し、車線・道路幅員減少区間等における効果的・効率的な走行支援システムの開発を、全国展開を意識しつつ行うとともに、システム導入の評価ツールとして交通シミュレータの開発を行うものである。			
21-3	3		研究名	複合データによる道路サービス・パフォーマンス情報システムの研究開発	筑波大学 大学院教授 石田 東生	10,000	C
			概要	路側観測による交通データとプローブカー調査データを融合し、従来よりも広域かつ高精度で多様な道路パフォーマンス情報を安価に提供可能なシステムを開発する。さらに、それを活用した政策支援アプリケーションについて提案する。			
22-1	3		研究名	都市高速道路における突発事象時の最適交通運用についての研究開発	神戸大学 大学院教授 朝倉 康夫	9,900	B
			概要	都市高速道路において、事前に予測が困難な事故等の障害(突発事象)の発生を速やかに検出し、その事象によって生じる旅行時間の変化を予測して利用者に提供するための技術を開発するとともに、突発事象の影響を最小化するために、情報提供下での利用者行動分析を踏まえた交通運用の最適化策について研究する。			
22-2	6		研究名	混合交通流の自動解析に基づく交通安全性・円滑性評価手法および交通制御・道路運用手法の構築	京都大学 大学院准教授 須崎 純一	6,300	B
			概要	本研究では、画像処理技術を活用して交通流の自動解析を実現し、それに基づいて交通流特性をモデル化し、最終的に交通安全性・円滑性評価手法の構築、交通シミュレータの開発、および交通制御・道路運用手法の策定を目的とする。			

* 網掛け部分は H22 年度採択の研究を示す。

【ハード分野・中間評価】

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H22 委託額(千円)	中間評価(案)	
21-4	8		研究名	水分履歴を考慮した不飽和道路盛土の耐震性の評価法と強化法	京都大学 教授 岡 二三生	9,300	B
			概要	豪雨や浸透水など水分履歴を考慮した道路盛土の耐震性の評価法および強化法の確立のため、各種地盤探査、不飽和土の実験的な研究、地震時の不飽和・飽和地盤の動的浸透・変形連成解析法の開発を実施する。			
21-5	8		研究名	鋼橋の腐食劣化メカニズムの解明と耐久性診断に関する研究	琉球大学 准教授 下里 哲弘	12,000	B
			概要	鋼橋の防錆防食の寿命予測法の提案するため、沖縄にて 30 年間曝露され腐食劣化した耐候性鋼橋に対して、構造部位別での腐食劣化度と ACM 腐食センサを用いた環境調査により鋼橋の腐食劣化メカニズムを解明し、実環境と相似な環境における新腐食促進試験法を開発する。また、疲労と耐力試験の複合耐久性試験により実用的な鋼橋の耐久性診断法を提案する。			

【ハード分野・革新的研究調査（FS）評価】

番号	領域	タイプ	研究名とその概要	研究代表者	H22 委託額(千円)	FS 評価(案)	
22-3	8		研究名	非破壊検査のための非接触音響探査法についての研究開発	桐蔭横浜大学 教授 杉本 恒美	7,500	B
			概要	強い音響振動を発生する長距離音響発生装置と高感度のスキャンング振動計を組み合わせた非接触音響探査法により、トンネル覆工や橋梁、その他構造物のコンクリート劣化部の非接触・非破壊検査システムを開発する。			
22-4	8		研究名	新たな超高周波電磁波を用いた道路構造物欠陥診断の研究開発	東北大学 大学院教授 小山 裕	9,000	B
			概要	道路建造物内部の欠陥を非破壊で検出する新規な手法を開発する事が目的である。そのため、これまで殆ど使われなかった透過性が高く人体に安全な新しい光である独自の超高周波電磁波(テラヘルツ波)を用いて、現場で特別な養生無く使える安心・安全で高精度な構造物欠陥検出方法の実用化を目指す。			

中間評価：研究継続の妥当性評価

A: 現行のとおり推進	研究は順調に実施されており、現行のとおり推進することによって十分な研究目的が達成される見込みである。
B: 現行のとおり推進(指摘事項有り)	研究は順調に実施されているものの、十分な研究目的を達成するためには、評価者からの指摘事項に留意の上、推進することが必要である。
C: 研究計画を修正の上推進	このままでは十分な研究目的の達成が期待できないと思われるので、評価者からの指摘事項を踏まえ、研究計画を修正の上、推進することが必要である。
D: 中止	現在までの進捗状況に鑑み、研究目的の達成が困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。

革新的研究調査（FS）評価：研究継続（新規研究としての採択）の妥当性評価

A: 新規研究として採択	実現性は十分であると評価する。よって、次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
B: 新規研究として採択(指摘事項有り)	実現性はあると評価するが、研究目標を十分達成するためには、評価者からの指摘事項に留意が必要。次年度から新規研究として採択し、引き続き研究を継続する。
D: 不採択	実現性はほとんどなく、研究目標を達成することは困難と思われるので、研究を中止することが妥当と判断される。